

平成26年度

男女共同推進フォーラムに参加して

8月29日から2泊3日の日程で、男女共同参画を推進する行政、女性団体、NPO、大学、企業などの担当者が一堂に会し、男女共同参画推進フォーラムが、埼玉県嵐山町の国立女性教育会館で開催され、全国各地から3日間で1、165名が参加しました。町内から穴戸一江さんが参加し、その感想が穴戸さんから寄せられましたので、紹介します。



穴戸 一江さん
(温泉2区)

それは、知り合いからの電話でした。

「男女共同参画推進フォーラム」研修会に参加しませんか？と。好奇心旺盛な私は軽い気持ちで参加しますと返事をしました。

その後、事前研修会が行われ、研修内容を改めて確認。2泊3日のワークショップを無事に終えることができるのかという不安と、フォーラムに参加される色々な方達との交流会を楽しみにしながら会場となる国立女性

教育会館へと向かいました。

私が、選択したワークショップは次の4つです。

- ① 仙台版防災ワークショップ
「みんなのための避難所作り」
- ② 日本を変えた10人の女性音楽家
- ③ ワーク・ライフ・バランスをテーマにした即興劇
- ④ 防災とまちづくり、そして男女共同参画

仙台版防災ワークショップ

「みんなのための避難所作り」に参加したワークショップの中で、仙台版防災ワークショップ「みんなのための避難所作り」について報告したいと思います。

このワークショップは、3・11の東日本大震災で、避難所生活之余儀なくされた体験から、その中で起きた多くの問題を提起し、みんなで解決策を探していくプログラムでした。



テーマに分かれ男女共同参画について論議する参加者

6人ずつのグループに分かれ、

実際に避難所で起こった事例に基づいて話し合い、避難所運営のルールを決め、発表するというワークショップでした。テーマは、3000人の人達が避難所生活を始めて一週間が経ち、次のような問題が起きてくる中で、どんな解決策があるのかを話し合いました。

問題点と解決策

- ① 救援物資の中で女性が必要とする下着類の配布の仕方の苦情
- ② 避難所で乳幼児の夜泣きがうるさいと他の避難者からの苦情
- ③ 夜、外にあるトイレに女性一人で行くと誰かに見られている
- ④ 食事担当をする人が固定されることにより、作り手、担い手両方からの配布に対する苦情
- ⑤ 夫からDVを受けていて、避難所に尋ねてきても自分のことを知られたくない。

以上の問題を踏ま

えながら、女性の視点から避難所をどのように運営していったらよいかを話し合いました。

私自身も2000年の有珠山噴火で避難生活を経験しました。ほぼ似たようなことが、当時の避難所にもあったような気がします。この先ここに住んでいる限り20〜30年周期で起こる有珠山噴火に備え、そのために多様に配慮した避難所運営のルール作りが大切になってくると思います。

同時にそういった運営は、誰もが暮らしやすいまちづくりの延長線上にあると思います。女性が普段から地域のことを決定する場に参画し、日頃から積極的にまちづくりに関わることで、それがいざというときの力になると思います。

研修を終えて「男女共同参画」の意義にふれたように思います。色々な人に出会うことができ、今回の研修に参加できたことを大変うれしく思い、一緒に参加された皆さんとも短い時間でしたが、楽しく過ごすことができました。よかったです。

私は、このフォーラムに参加して男女共同参画の意義を考えきつかけになりました。